# 奨励賞

伊藤

山田

設計担当者
伊藤 暁 | 伊藤暁建築設計事務所、東京建築士会

共同設計者
山田憲明 | 山田憲明構造設計事務所

事務所／神奈川県横浜市

## 戸塚の社屋

構造 | 木造
階数 | 地上2階
敷地面積 | 499.26㎡
建築面積 | 185.82㎡
延べ面積 | 222.84㎡
竣工年 | 令和5年

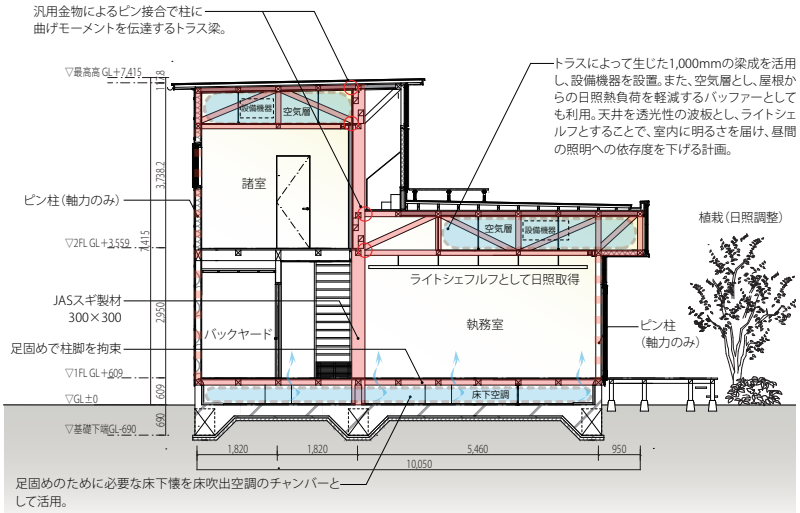
1

2

3

1 西側外観。ラーメン構造のため道路側には耐力壁が無く、街に開かれたファサードを形成
2 1階執務室。300mm角の柱を1820mmピッチで並べる。トラスによって3間×7間のフレキシブルな空間を実現
3 トラス梁により、ピン接合で曲げモーメントを伝達する。梁成によって生じた空間を環境調整機能や設備機器スペースとして活用

写真撮影1・3…TakeshiYAMAGISHI



断面図

## 選評

この作品の最大の挑戦は、「モダニズム的価値観の中で切り捨てられてきたさまざまな木造要素の再評価」である。たとえば300角のスギ大径柱と並行弦トラスによる2方向合成ラーメン構造は、ピン接合かつ大径材の「太さ」の利用により、各接合部の納まりを無理なく簡易なものにしている。また柱脚部の足固めは、中世以降の日本建築の貫を再解釈し木の曲げ耐力を生かしている。これらの構造から必然的に生まれたトラス内や床下の空間は、空気層や空調・照明設備スペースとして有効活用している。

本来、木材は性能や形にばらつきがあり、木造ではそれを受け入れるための冗長性が必須である。「最小断面の部材」「無駄のない合理的な空間」ではなく、太さや余剰空間を肯定し使い倒す、という思想が、この建築では隅々まで行き渡っている。

一方、温かさや懐かしさなどの情緒的なイメージは慎重に避け、木造の親密さを異なるかたちで実現している。たとえばポリカ天井のシンプルな納まりや、押縁を多用した欄間など、自分たちで手を加えられるという気軽さ・身近さは、これもまた木造が本来持っている「空間への参加性」の再発掘といえる。

何かと木造がもてはやされる昨今の風潮に一石を投じる、秀逸な作品である。（冨永祥子）